

<2017年3月期 通期決算 市橋社長挨拶>

【2017年3月期 実績について】

まず、販売状況ですが、16年度は、日本国内での販売台数は6万6,815台でしたが、これは過去最高の販売台数です。海外販売は、過去最高とはいきませんでした。前年を上回ることができました。グローバル販売台数は17万4,409台となり、こちらも過去最高となりました。

損益面では、売上高1兆6837億円、営業利益は712億円、純利益は494億円となりました。

前年と比較いたしますと、販売は比較的好調に推移した一方で、為替円高、将来の成長のための費用負担の増加、トヨタ向け出荷の減少等のマイナス影響があり、減収減益という結果になりました。

なお、期末配当については、本年1月に公表いたしました見通しを上回ったこと等を踏まえ、前回予想に対して4円増配の15円とし、中間配当と合わせた年間では26円とさせていただきますと考えております。

【2018年3月期 見通しについて】

国内外での販売増を通じて、グローバル販売台数は183千台を計画しています。国内では、先日発表した新型車の積極的な販売、海外ではインドネシアをはじめ、回復基調にあるマーケットなどで着実に販売を積み上げていきたいと考えています。

また、損益の見通しについてですが、まず、今期も古河工場の償却費の本格発生などの負担増を見込んでいます。加えて、今期は材料市況が大きな減益要因になると想定していますが、国内外での販売の積み上げと、古河工場効果も含めた原価改善を通じて増収増益を狙うということで、売上高は1兆7,200億円、営業利益で750億円と致しました。純利益は500億円の見通しです。

なお、配当については、持続的成長に向けた投資と財務体質改善を並行しながら、従来通り配当性向3割を目安とし、前期と同額の26円とさせていただきますと考えております。

【大中トラック新型車について】

先日、大型トラック「日野プロフィア」と中型トラック「日野レンジャー」の新型車を発表しました。

ドライバー不足の問題が年々深刻さを増している中、ライフラインのひとつである物流を支えるためには、メーカーとしても、人材の確保や定着に向けて、取り組むべき課題は多いと認識しており、新型車は、ドライバー、事業者、荷主、それぞれにとって優れた車づくりを目指して開発いたしました。

そして、運転の負担軽減や快適さの向上、燃費性能の向上、安全装備の充実、そしてアップタイム最大化と更なるトータルサポートを目指した ICT サービスの導入など、日野渾身のクルマに仕上げることができました。

現在流れているコマースシャルのキャッチフレーズである「社長、こいつに乗せてくれ」のとおり、すべてのドライバーが乗りたくなるトラックになったと思います。

発表以来、各地でお客様向けの発表会を行っています。おかげさまで、たいへん多くのお客様にご来場いただき、試乗していただいております。高い期待と評価の声を多くいただいております。

【新型車の生産と良い商品の追及】

この新型車は、17年年初より全面稼働を開始した古河工場生産します。

車両生産は、年内にすべて日野工場から古河工場に移管する予定であり、この工場移転を引き続きしっかりとやりきり、投資効果を確実なものとしていきたいと考えております。

日野は、車両関連は古河工場に、ユニットを新田工場へといった工程再編を通じて生産体制を最適化することにより、生産性を向上しながら同時に台数の増減に対する柔軟性を高める一方、適格商品の開発と合わせ、お客様の多様なニーズを満たす「良い商品」の提供を、短いリードタイムでお届けすることを、これからも徹底的に追及してまいります。

【将来に向けた取り組み】

最後に、将来に向けた日野のチャレンジについて申し上げます。

昨今、自動車産業を取り囲む環境は激変し、技術革新の大きな波が押し寄せており、中でも、自動運転の実用化への関心が高まっています。

日野は、高度安全運転支援技術を追求していくことが、自動運転技術の確立につながると考えており、より安全・安心・便利な商品のためにこれまでも取り組んできた先進技術の開発をさらに進めていきます。

さまざまな要素技術の開発は、1社の技術力では成しえませんが、日野は、トヨタグループに属するシナジーだけでなく、官民一体となった幅広い取り組みなども、実用化に向けては重要と考えており、積極的に技術開発を進めてまいります。そして将来は、物流の効率化に向けて、お客様の困りごとやニーズにタイムリーに対応できるような、新たな付加価値を提供していきたいと思っております。

また、環境技術についても、四半世紀の実績を持つハイブリッド車やその技術の応用に加え、EV、燃料電池車といった電動車の技術開発も引き続き推し進め、適材適所で、タイムリーな商品の提供を行ってまいります。

【おわりに】

日野は、これからも、足元と未来を見据えながら、持続的成長に向けたチャレンジを続けます。生産体制の最適化と、適格商品の開発につきましては、先日の大中トラック新型車の発表に続き、小型トラックの商品力強化なども含め、着実に推し進めていきたいと考えております。

「良い商品」と「トータルサポート」でお客様のビジネスを支え、お客様とともに成長していく。日野は、これからもそういう会社であり続けたいと考えております。

以上